

## ストレスチェック制度実施規程

### 第1章 総則

(規程の目的・変更手続き・周知)

**第1条** この規程は、労働安全衛生法第66条の10の規定に基づくストレスチェック制度を株式会社友祐において実施するに当たり、その実施方法等を定めるものである。

2 ストレスチェック制度の実施方法等については、この規程に定めるほか、労働安全衛生法その他の法令の定めによる。

3 会社がこの規程を変更する場合は、衛生委員会において調査審議を行い、その結果に基づいて変更を行う。

4 会社は規程の写しを社員に配布又はホームページに掲載することにより、適用対象となる全ての社員に規程を周知する。

(適用範囲)

**第2条** この規程は、次に掲げる株式会社友祐の対象条件を満たす入社半年経過後の全社員及び派遣社員に適用する。

- 一 期間の定めのない労働契約により雇用されている正社員
- 二 期間を定めて雇用されている準社員で1年以上の雇用見込みのある者
- 三 期間を定めて雇用されている派遣社員で1年以上の雇用見込みのある者

(制度の趣旨等の周知)

**第3条** 会社は、本規程を社員に配布又は当社ホームページに掲載することにより、ストレスチェック制度の趣旨等を社員に周知する。

一 ストレスチェック制度は、社員自身のストレスへの気付き及びその対処の支援並びに職場環境の改善を通じて、メンタルヘルス不調となることを未然に防止する一次予防を目的としており、メンタルヘルス不調者の発見を一義的な目的とはしないものであること。

二 社員がストレスチェックを受ける義務までではないが、専門医療機関に通院中などの特別な事情がない限り、全ての社員が受けることが望ましいこと。

三 ストレスチェック制度では、ストレスチェックの結果は直接本人に通知され、本人の同意なく会社が結果を入手するようなことはないこと。したがって、ストレスチェックを受けるときは、正直に回答することが重要であること。

四 本人が面接指導を申し出た場合や、ストレスチェックの結果の会社への提供に同意した場合に、会社が入手した結果は、本人の健康管理の目的のために使用し、それ以外の目的に利用することはないこと。

### 第2章 ストレスチェック制度の実施体制

(ストレスチェック制度担当者)

**第4条** ストレスチェック制度の実施計画の策定及び計画に基づく実施の管理等の実務を担当するストレスチェック制度担当者は、業務課の職員とする。

2 ストレスチェック制度担当者の氏名は、別途、当社ホームページに掲載する等の方法により、社員に周知する。また、人事異動等により担当者の変更があった場合には、その都度、同様の方法により社員に周知する。

(ストレスチェックの実施者)

**第5条** ストレスチェックの実施者は、産業医を実施代表者とする。

(ストレスチェックの実施事務従事者)

**第6条** 実施者の指示のもと、ストレスチェックの実施事務従事者として、衛生管理者及び業務課職員に、ストレスチェック実施日程の調整・連絡、調査票の配布、回収、データ入力等の各種事務処理を担当させる。

2 衛生管理者又は業務課の職員であっても、社員の人事に関して権限を有する者(取締役、調査役等)は、これらのストレスチェックに関する個人情報を取り扱う業務に従事しない。

(面接指導の実施者)

**第7条** ストレスチェックの結果に基づく面接指導は、会社の産業医が実施する。

### 第3章 ストレスチェック制度の実施方法

#### 第1節 ストレスチェック

(実施時期)

**第8条** ストレスチェックは、毎年11月に実施する。

(対象者)

**第9条** ストレスチェックは、派遣社員も含む社員を実施対象とする。

2 ストレスチェック実施期間中に、出張等の業務上の都合によりストレスチェックを受けることができなかった社員に対しては、別途期間を設定して、ストレスチェックを実施する。

3 ストレスチェック実施期間に休職していた社員のうち、休職期間が1月以上の社員については、ストレスチェックの対象外とする。

(受検の方法等)

**第10条** 社員は、専門医療機関に通院中などの特別な事情がない限り、会社が設定した期間中にストレスチェックを受けるよう努めなければならない。

2 ストレスチェックは、社員の健康管理を適切に行い、メンタルヘルス不調を予防する目的で行うものであることから、ストレスチェックにおいて社員は自身のストレスの状況をありのままに回答すること。

3 会社は、なるべく全ての社員がストレスチェックを受けるよう、実施期間の開始後に社員の受検の状況を把握し、受けていない社員に対して、実施事務従事者又は各職場の管理者(部門長など)を通じて受検の勧奨を行う。

(調査票及び方法)

**第11条** ストレスチェックは、調査票(職業性ストレス簡易調査票)を用いて行う。

2 ストレスチェックは、紙媒体で行う。

(ストレスの程度の評価方法・高ストレス者の選定方法)

**第12条** ストレスチェックの個人結果の評価は、「労働安全衛生法に基づくストレスチェック制度実施マニュアル」(平成27年5月 厚生労働省労働基準局安全衛生部労働衛生課産業保健支援室)(以下「マニュアル」という。)に示されている素点換算表を用いて換算し、その結果をレーダーチャートに示すことにより行う。

2 高ストレス者の選定は、マニュアルに示されている「評価基準の例(その1)」に準拠し、以下のいずれかを満たす者を高ストレス者とする。

- ① 「心身のストレス反応」(29項目)の合計点数が77点以上である者
- ② 「仕事のストレス要因」(17項目)及び「周囲のサポート」(9項目)を合算した合計点数が76点以上であって、かつ「心身のストレス反応」(29項目)の合計点数が63点以上の者

(ストレスチェック結果の通知方法)

**第13条** ストレスチェックの個人結果の通知は、実施者が封筒に封入し、実施事務従事者が配布する。

(セルフケア)

**第14条** 社員は、ストレスチェックの結果及び結果に記載された実施者による助言・指導に基づいて、適切にストレスを軽減するためのセルフケアを行うように努めなければならない。

## 第2節 医師による面接指導

(面接指導の申出の方法)

**第15条** ストレスチェックの結果、医師の面接指導を受ける必要があると判定された社員が、医師の面接指導を希望する場合は、結果通知の封筒を受け取ってから30日以内に申し出なければならない。

(面接指導の実施方法)

**第16条** 面接指導の実施日時及び場所は、面接指導を実施する産業医の指示により、実施事務従事者が、該当する社員及び管理者に電子メール又は電話により通知する。

面接指導の実施日時は、面接指導申出書が提出されてから、30日以内に設定する。

なお、実施事務従事者は、電話で該当する社員に実施日時及び場所を通知する場合は、第三者にその社員が面接指導の対象者であることが知られることがないように配慮しなければならない。

2 通知を受けた社員は、指定された日時に面接指導を受けるものとし、管理者は、社員が指定された日時に面接指導を受けることができるよう配慮しなければならない。

3 面接指導を行う場所は、産業医により紹介を受けた場所とする。

(面接指導結果に基づく医師の意見聴取方法)

**第17条** 会社は、産業医に対して、面接指導が終了してから遅くとも30日以内に、「面接指導結果報告書兼意見書」により、結果の報告及び意見の提出を求める。

(面接指導結果を踏まえた措置の実施方法)

**第18条** 面接指導の結果、就業上の措置が必要との意見書が産業医から提出され、人事異動を含めた就業上の措置を実施する場合は、人事労務部門の担当者が、産業医同席の場で、該当する社員に対して、就業上の措置の内容及びその理由等について説明を行う。

2 社員は、正当な理由がない限り、会社が指示する就業上の措置に従わなければならない。

## 第4章 記録の保存

(ストレスチェック結果の記録の保存担当者)

**第19条** ストレスチェック結果の記録の保存担当者は、第6条で実施事務従事者として規定されている衛生管理者及びグループ業務課社員とする。

(ストレスチェック結果の記録の保存期間・保存場所)

**第20条** ストレスチェック結果の記録は、会社のサーバーに保存する。

(ストレスチェック結果の記録の保存に関するセキュリティの確保)

**第21条** 保存担当者は、会社のサーバー内に保管されているストレスチェック結果が第三者に閲覧されることのないよう、責任をもって閲覧できるためのパスワードの管理をしなければならない。

## 第5章 ストレスチェック制度に関する情報管理

(面接指導結果の共有範囲)

**第22条** 面接指導を実施した医師から提供された面接指導結果報告書兼意見書(面接指導結果の記録)は、人事労務部門内のみで保有し、そのうち就業上の措置の内容など、職務遂行上必要な情報に限定して、該当する社員の管理者及び上司に提供す。

(健康情報の取扱いの範囲)

**第23条** ストレスチェック制度に関して取り扱われる社員の健康情報のうち、診断名、検査値、具体的な愁訴の内容等の生データや詳細な医学的情報は、産業医又は保健師が取り扱わなければならない、人事労務部門に関連情報を提供する際には、適切に加工しなければならない。

## 第6章 情報開示、訂正、追加及び削除と苦情処理

(守秘義務)

**第24条** 社員からの情報開示等や苦情申し立てに対応するグループ業務課職員は、それらの職務を通じて知り得た社員の秘密(ストレスチェックの結果その他の社員の健康情報)を、他人に漏らしてはならない。

## 第7章 不利益な取扱いの防止

(会社が行わない行為)

**第25条** 会社は、社内掲示板に次の内容を掲示するほか、本規程を社員に配布することにより、ストレスチェック制度に関して、会社が次の行為を行わないことを社員に周知する。

- 一 ストレスチェック結果に基づき、医師による面接指導の申出を行った社員に対して、申出を行ったことを理由として、その社員に不利益となる取扱いを行うこと。
- 二 社員の同意を得て会社に提供されたストレスチェック結果に基づき、ストレスチェック結果を理由として、その社員に不利益となる取扱いを行うこと。
- 三 ストレスチェックを受けない社員に対して、受けないことを理由として、その社員に不利益となる取扱いを行うこと。
- 四 ストレスチェック結果を会社に提供することに同意しない社員に対して、同意しないことを理由として、その社員に不利益となる取扱いを行うこと。
- 五 医師による面接指導が必要とされたにもかかわらず、面接指導の申出を行わない社員に対して、申出を行わないことを理由として、その社員に不利益となる取扱いを行うこと。
- 六 就業上の措置を行うに当たって、医師による面接指導を実施する、面接指導を実施した産業医から意見を聴取するなど、労働安全衛生法及び労働安全衛生規則に定められた手順を踏まずに、その社員に不利益となる取扱いを行うこと。
- 七 面接指導の結果に基づいて、就業上の措置を行うに当たって、面接指導を実施した産業医の意見とはその内容・程度が著しく異なる等医師の意見を勘案し必要と認められる範囲内となっていないものや、労働者の実情が考慮されていないものなど、労働安全衛生法その他の法令に定められた要件を満たさない内容で、その社員に不利益となる取扱いを行うこと。
- 八 面接指導の結果に基づいて、就業上の措置として、次に掲げる措置を行うこと。
  - ① 解雇すること。
  - ② 期間を定めて雇用される社員について契約の更新をしないこと。
  - ③ 退職勧奨を行うこと。
  - ④ 不当な動機・目的をもってなされたと判断されるような配置転換又は職位（役職）の変更を命じること。
  - ⑤ その他の労働契約法等の労働関係法令に違反する措置を講じること。

## 附則

(施行期日)

**第1条** この規程は、令和05年11月1日から施行する。―